

ライブラリーニュース2月号

R7. 2 発行
西部中図書館

『1月は往く、2月は逃げる、3月は去る』という言葉があります。
1月、2月、3月はあっという間に過ぎ去るという意味です。
図書館の本は毎年数百冊ずつ入れ替わります。読みたい本は早めに読んでください。
3月は本の貸出はありません。

〈ご協力をお願いします〉

今月は**14日(金)**まで本の貸出を行います。**最終返却日は21日(金)です。**
26日(水)には蔵書点検を行います。蔵書点検が終わったら、図書館を開放します。ただし貸出はできません。早く図書館が開放できるよう期限厳守の協力をお願いします。

【第172回 直木賞受賞作品が発表されました】

・直木賞

『藍を継ぐ海』（あいをつぐうみ）

作者 伊与原新（いよはらしん）



どの話も、生きる苦しさや哀しみを、自然科学を知る事で乗り越えたり受け入れたり、幸せだと感じられるようになり、歩む先を見つけられたり。じんわりと心に沁みる素敵なお話です。

作者の言葉 日本人の祖先が列島へ渡ってきて、4万年。世代に換算すれば、ざっと1300世代である。列島の各地に広がった人々は、多様な風土に適応し、山海の資源を活かす術を学んで定着した。そして、その方法を家族や共同体で連綿と受け継ぎながら生きてきた。『藍を継ぐ海』では、見島（山口県）の他に、奈良の東吉野村、長崎の長与町、北海道の遠軽町、徳島の海辺の町を舞台にしたが、この5編に通奏低音として響かせようと試みたのは、それぞれの土地に固有の「継承」である。

神代の物語を紡いだ人々は、天の川銀河の2千億個ともいわれる恒星系の1つで地球が46億年前に生まれたことを想像できただろうか。流れ星で吉兆を占った人々は、その正体が彗星の塵や小惑星の破片であることを想像できただろうか。村の浜でウミガメの産卵を見守ってきた人々は、それらが遥か太平洋をひと巡りして戻ってくることを想像できたのだろうか。列島の各地で営まれてきた「継承」を科学の光で照らしたとき、その像はよりくっきりと浮かび上がり、また新たな輝きを放ち始める。

〈今月の新着本〉

地雷グリコ	青崎 有吾
税金で買った本 10	糸山 問
税金で買った本 11	糸山 問
はたらく細胞 BLACK 8	初嘉屋 一生
はたらく細胞 Lady 5	乙川 灯
あいにくあなたのためじゃない	柚木 麻子
山田全自動の落語でござる	山田 全自動
古典落語100席	立川 志の輔
令和元年の人生ゲーム	麻布競馬場
水族館飼育員だけが見られる世界	下村 実
ちょっぴりながもちするそうです	ヨシタケ シンスケ
中野信子のこどもアート脳科学	中野 信子
うまいダッツ	坂木 司
アップサイクル!	佐藤 まどか
あなたの言葉を	辻村 深月
夜空にひらく	いとう みく
10代から知っておきたいあなたを丸めこむ 「ずるい言葉」	貴戸 理恵
出世できない孔子と、悩める十人の弟子たち	下村 湖人
空とラッパと小倉トースト	オザワ部長
たんぱく質と腸の新常識	平島 徹朗
君に伝えたい「本当にやりたいこと」の見つけかた	池上 彰
どうしようもなく辛かったよ	朝霧 咲
アマゾンの不思議な森へようこそ	南 研子
リラの花咲くけものみち	藤岡 陽子
「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所 で見つけた命の次に大事なこと	村田 慎二郎
おしごとそうだんセンター	ヨシタケ シンスケ
動物たちは何をしゃべっているのか?	山極 寿一
国道沿いで、だいじょうぶ100回	岸田 奈美
藍色ちくちく ―魔女の菱刺し工房―	高森 美由紀
小田くん家は南部せんべい店	高森 美由紀